

円居

令和5年12月20日(水)
備前市立備前中学校
校長 藤森 卓麻
0869-64-3365

口先だけでは終わらない

人権週間(12/4~8)

学級討議

一学期に各クラスで考えた「学級人権宣言」に関わる取組について、振り返りをしました。宣言を踏まえてこれまでの成果と課題、これから取り組んでいくことなどを考えました。

朝読書

火曜日から金曜日まで、朝読書の時間に「全国中学生人権作文コンテスト」の入賞作品を読みました。人種差別や障がい者差別、犯罪を犯した人の人権、高齢者の問題、同世代の作文から様々な人権問題について触れました。

人権集会

人権に関するクイズ

差別・偏見

つながる当たり前前や思い込みが、自分の中にあることに気づくクイズにクラスみんなで取り組みました。

各クラスからの発表

学級討議の内容をパワーポイントを使って発表しました。クラスの中にある「あ



画面を通じて全校で答え合わせ

りがとう」やそれぞれのよさを積み重ねていく取り組みや、自分と学級、各々の視点で目標を設定したり、アンケートから客観的にクラスの状態をとらえたりする取り組みなど、どのクラスもこの人権週間に真剣に向き合っていたことが伝わってきました。



人権委員が活躍しました

「差別」に出会う

私が仕事で南米ペルーに住んでいたときのこと。かつてインカ帝国がスペインの植民地となり、さらにはアジアからも多くの移民が移り住んだという歴史もあり、ペルーには先住民系の人、ヨーロッパ系の人、アフリカ系の人、アジア系の人…、様々な人種の人々が暮らしている。ペルーに来たばかりの頃、街を歩いていると「\$%※#ー」と、数人の男性に声をかけられた。どう見ても友好的な感じではない。アジア系の人を馬鹿にするポーズも一緒だった。これかあ、と思った。南米ではごく一部でアジア系の人を蔑視する人たちがいるというのは知っていたが、実際に体験するとさすがにショックだった。この先ずっと自分は差別されるのだろうか、この国で楽しく暮らしていけるのだろうか…。不安にもなった。が、アジア人というだけで差別する彼らの方が明らかに間違っている、という確信が自分の中にあつたこと、ペルー人の友だちがこの話を聞いて「なんだそいつらは!? けしからん!」と、怒ってくれたこと、そのおかげでこのときの私は救われた。

備前中の子どもたちは人権集会だけではなく、日々の生活の中で人権について学んでいる。差別はダメ、なんてことはみんな頭の中ではわかっている。ただ、自分がこの先、新しい環境に飛び込んでいったときに、そこで差別に出会ったらどうするだろう。心から差別は許さないといい、その思いを周りに伝え行動することができるだろうか。

わたしはペルーで救われた、と言ったが、その差別に立ち向かっていったわけではない。目の前のことに関心を持ち、自分でしっかりと考える。それが正しいかどうか周りに流されることなくきちんと判断する。その自分の考えを自分の言葉で発信する、行動に移す。そうやって、自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする、そんな生徒が育つ備前中でありたいと思う。

★『世界人権宣言』

集会の終わりに、私からは『世界人権宣言』の次の三つの条文について触れさせてもらいました。

第29条 ー権利と身勝手は違うー

わたしたちはみな、すべての人の自由と権利を守り、住み良い世の中を作る為の義務を負っています。自分の自由と権利は、ほかの人々の自由と権利を守る時にのみ、制限されます。

第30条 ー権利を奪う権利はないー

この宣言でうたわれている自由と権利

を、ほかの人の自由と権利をこわすために使ってはなりません。どんな国にも、集団にも、人にも、そのような権利はないのです。

第28条 ーこの宣言が目指す社会ー

この宣言が、口先だけで終わらないような世界を作ろうとする権利もまた、わたしたちのものです。

出典：アムネスティ日本HP

「わかりやすい世界人権宣言」

条文訳：谷川俊太郎

アムネスティ日本



学級人権宣言も、口先だけで終わってはいけません。お互いのことを認め合い、支え合い、高め合える、一人一人にとって(もちろん自分も含めて)居心地のいい備前中を目指してほしいと思います。

ありがとうございました

ー個人懇談ー

それぞれお忙しい中、時間を作ってくださいありがとうございました。限られた時間でしたが、有意義な時間となったでしょうか。

2023年も残すところ二週間足らずとなりました。冬休みを迎えます。子どもたちには充実した休みにしてほしいと思います。保護者の皆様、本年も大変お世話になりました。どうぞよいお年をお迎えください。



備前中HPから「学校の様子」がご覧いただけます。

